

**6/1-7#3ダニエルとその仲間に見られる勝利者たちの勝利:**Ⅰ.主の回復の原則は、「ダニエルとその仲間」(ハナニヤ、ミシャエル、アザリヤ)に見られます。彼らは勝利者として絶対的に神と一であり、サタンへの企みに勝利しました。Ⅱ.ネブカデネザルは、ダニエルとその仲間を悪魔的に誘惑したとき、彼らが神に属していることを示す彼らの名を、彼らを偶像と一にする名に変えました。ダニエル1:3 時に、王は宦官の長...に告げて、イスラエルの子たちの何人かを...連れて来させた。4 その若者たちは、何の欠陥もなく、容姿が良く、あらゆる知恵において洞察力があり、知識において理解があり、考えることにおいて把握があり、王の宮廷に立つ能力のある者であった。...7 宦官の長は彼らに名をつけた。Ⅲ.ダニエルの名は「神は私の裁き主である」を意味し、ベルテシャザルに変えられました。それは「ベルの王子」、あるいは「ベルの寵愛するもの」を意味します。Ⅳ.ハナニヤの名は「ヤハは恵み深く与えた」、あるいは「ヤハの恩恵を受ける」を意味し、シャデラクに変えられました。それは「太陽の神に照らされる」を意味します。Ⅴ.ミシャエルの名は「だれが神のようであるか?」を意味し、メシャクに変えられました。それは「だれが女神シャクのようになり得るか?」を意味します。Ⅵ.アザリヤの名は「ヤハは助けた」を意味し、アベデ・ネゴに変えられました。それは「火の神ネゴの忠実なしもべ」を意味します。Ⅶ.ダニエルとその仲間は悪鬼的な飲食に勝利しました。Ⅷ.ネブカデネザルの悪魔的な誘惑は、まず神の失敗した選民の四人の卓越した若い子孫、すなわちダニエルとその三人の仲間をそそのかし、彼の汚れた食物、偶像にささげられた食物にあずからせて、汚されるようにすることでした。Ⅷ.ダニエルとその仲間がその食物を食べることは、汚れを取り入れ、偶像を取り入れ、こうしてサタンと一になることでした。Ⅸ.ダニエルとその仲間がネブカデネザルの汚れた食物を食べることを拒否し、むしろ野菜を食べることを選んだ時、原則において、彼らは善悪知識の木を拒絶し、命の木を取ったのであり、それは彼らを神と一にしました。1:8 ところが、ダニエルは王のえり抜きの食物や王が飲むぶどう酒で自分を汚すまいと心に定めたので、宦官の長に、自分を汚させないようにと求めた。16 そこで、家令は彼らの分け前であるえり抜きの食物と、彼らが飲むべきぶどう酒を取り去って、彼らに野菜を与えた。Ⅹ.主の回復は、イエスを食べて召会を建造することの回復です。Ⅺ.私たちは主の言葉を食べることによって、また純粋な心で彼を呼び求める人たちと接触し共にいるように心がけることによって、イエスを食べることができます。Ⅻ.ダニエルとその仲間は、大きな人の像と砕く石(人類歴史の中にある神聖な歴史)を

人に見させないようにする悪魔的な隠ぺいに勝利しました。Ⅼ.団体のキリストは、石と山、花婿と花嫁、神の息を持つ神の団体の人であり、彼の口から出る息、剣によって反キリストとその軍隊を砕き、殺します。Ⅽ.キリストは、神の建造の生ける尊い石、土台の石、隅の石、頂石であり、尊さである彼ご自身を私たちに注入して、私たちが彼の建造のための生ける尊い石へと造り変えます。Ⅾ.ダニエルとその仲間は、偶像礼拝の誘惑に勝利しました。Ⅿ.私たちの再生された霊の中におられる真の神でないものは何であれ、神に置き換わる偶像です。霊の中にあるもの、また霊からでないものは何であれ偶像です。ⅰ.からだの敵は自己であり、自己は自己の利益、自己を高く上げること、自己の栄光、自己の美、自己の力をもって神に置き換わります。からだの中で、またからだのために、私たちは自己を否み、自分自身を宣べ伝えず、キリスト・イエスを主と宣べ伝えます。ⅱ.ダニエルの仲間は真の殉教の霊を持っていました。彼らは唯一の神である主のために立ち、自分の命を犠牲にし偶像礼拝に反対して、ネブカデネザルの命令によって、燃える炉に投げ込まれました。3:17 もし、そうなれば、私たちが仕えている神は、私たちが火の燃える炉から救い出すことができます。王よ、彼は私たちがあなたの手から救い出されます。18 しかし、たとえそうでなくても、王よ、あなたにお知らせします。私たちはあなたの神々に仕えず、あなたが立てた金の像を拝みません。3:23 この三人...は、縛られたまま火の燃える炉の中に落ちていった。ⅰ.ネブカデネザルは炉の中を見た時、四人が火の中を歩いているのを見ました。第四の者は人の子としての超越したキリストであり、来て彼の三人の苦難を受け迫害された勝利者と共について、その火を喜ばしい場所にして、その中を歩き回りました。ⅱ.三人の勝利者は、神が彼らを炉から救い出してくださるようにと求める必要はありませんでした。人の子としてのキリストは、資格づけられて、あらゆることで神の民に同情することができる方であり、来て彼らの仲間となり、彼らの苦難の中で彼らを顧み、彼の臨在によって、彼らの苦難の場所を喜ばしい状態としました。ⅲ.ダニエルとその仲間は、人が天の神による天の支配を見ることを妨げるおおいに勝利しました。ⅳ.キリストを首位とするために神によって選ばれて彼の民となった者たちとして、私たちはキリストを首位とする目的のために、神の天的支配の下にいます。4:34 彼の主権は永遠の主権であり、彼の王国は代々に及ぶ...35そして、彼は...みこころにしたがって行なわれる。彼の手抵抗し...得る者はない。ⅴ「彼は高ぶって歩む者たちを低くすることができる」(4:37b)。37 今、私...は、天の王を賛美し、高く上げ、尊ぶ。彼のすべて

のみわざは真実であり、彼の道は公正であり、彼は高ぶって歩む者たちを低くすることができるからである。

**VI.ダニエルとその仲間**は、神の御前で淫蕩にふけり神の聖を冒とくすることの結果に対する無知に勝利しました。**A**ベルシャザルが、エルサレムの聖なる宮にある神への礼拝のための器を取って、偶像を拝むのに用いたことは、神の聖に対する冒とくでした。彼はネブカデネザルの経験から学課を学ぶべきでした。

しかしながら、彼は学課を学ばず、その結果、損失を受けました。**B**「優れた霊と知識と洞察、夢の解き明かし、なぞ解き、難題[文字どおり]は、難局]の解決が...このダニエルの中に見いだされた...」(5:12a)。

**C**「ベルシャザルよ、あなたはこれをすべて知っていながら、心を低くしないで、天の主に向かって自分を高く上げました。そして人々は彼の家の器をあなたの前に持って来て、あなたと貴族たち、あなたの妻たち、そばめたちは、それで酒を飲みました。またあなたは、見ることも聞くことも知ることができない銀と金、青銅、鉄、木、石の神々を賛美しましたが、あなたの息と、あなたのすべての道がその手にある神を尊びませんでした」(22-23)。

**VII.ダニエルとその仲間**は、勝利者が忠信に神を礼拝することを禁止するようかつさに勝利しましたーダニエル第6章:**A**ダニエル書第6章の中心は、神のエコノミーを執行するための人の祈りです。

ダニエルは祈りに依り頼んで、人が行なうことのできない事を行ない、人が理解することのできない事を理解しました。祈りによる以外に、神のエコノミーを満たし、成就させる道はありません。これはこの章の内なる秘訣です。**B**ダニエルはエルサレムに向かって窓を開けており、日に三度祈りました。彼の恵み深い祈りを通して、神はイスラエルを彼らの父祖たちの地に連れ戻しました。私たちの祈りが、キリスト(聖なる地によって予表される)に向かい、神の王国(聖なる都によって予表される)に向かい、神の家(聖なる宮によって予表される)に向かって、神の永遠のエコノミーの目標とするとき、神は私たちの祈りを聞かれます。

**6:10**ダニエルはその文書が署名されたことを知って、自分の家に行った。彼は彼の上の部屋でエルサレムに向かって窓を開けていた。そして日に三度ひざまずき、彼の神の御前に祈り、感謝をささげた。彼は以前から、いつもそのように行なっていたからである。**11**...この人たちは集まって、ダニエルが自分の神の御前に祈願し、嘆願しているのを見いだした。

**証**私は大学院修了後、全時間奉仕を5年間した後、1990年29歳の時から就職しました。その時代はバブル経済の最高潮の時で、すべての人々は、金もうけのためにまっしぐらに突進していました。当時、企業は終身雇用制度を敷いており、従業員

は会社に忠信を示す必要があったので、過度な残業(月100時間以上)や付き合いのために夜の飲み会が普遍的に横行していました。また、1980年代後半から過労死の問題が顕著になり、特に日本の問題であるので、国際的にも"KAROSHI"として知られるようになりました。このように仕事のプレッシャーが猛烈な時代に、欧米の人々は我々日本人のことを、「彼らはビジネス・アニマルである」と言っていました。私は、これらの背景を理解しないまま就職したので、上司に度々やる気のない社員と見られ叱責されていました。私は主の御前にこのことを持ち出し、祈りました。すると主は私に、「真剣に仕事をするのは当然のことなので、暗い世の中にあっても私と共に、より真剣に仕事に取り組み、学びなさい」と言われました。

私は台湾全時間訓練FTTTに1986～1988年の2年間参加して、リー兄弟から直接、**①**神のエコノミーのビジョン、**②**そのビジョンを遂行するための神の定められた道、**③**この道はキリストのからだを建造して主の再来をもたらす、時代を転換させることについて聞きました。このビジョンが私の訓練生としての原動力になっていました。私は転職して神戸に移住し、管理職となってから、このビジョンを何度も思い出し、祈りました、「主イエスよ、私は仕事に真剣に取り組めます。そうでないと、私は会社に対して不義な人になってしまいます。しかし、私のビジネスライフが成功していても、失敗していても、私は神の永遠のエコノミーを忘れることはできません。究極的に私のビジネスライフは、神のエコノミーを遂行するためでなければなりません。多くの時、大混乱状態にあり、またプレッシャーや忙しさに潰されそうになり、ほとんど信仰を失いかけています。しかし、私は神のエコノミーを見なかったことにすることはできません。たとえ私が神のエコノミーのゆえに会社を解雇されたとしても、私はなおも信仰の中で神のエコノミーを保持します」。神の永遠のエコノミーを目標とする私のこのような祈りを、主は聞いてくださいました。29歳から66歳の今までのビジネスライフにおいて、信仰を保ち続け、勤勉に奉仕し続けることができたのは、これらの祈りによるところが大きかったと思います。また殉教の霊を持ち続ける秘訣は、妻の姉妹と一つ心で戦い、召会生活の中に自分を置き、聖徒たちと組み合わされた生活をするということです。1992年4月～2026年の今に至るまで、基本的に毎年10%以上(コロナパンデミックの期間2020～2024年を除く。この期間も召会の人数は減りませんでした)、召会は増し加わり続けました。主イエスよ、神戸に在る召会の歩みを継続させ、さらに加速させてください!